

【証券コード：6728】

# 決算説明資料

2018年度（FY2018）

第1四半期（1Q：2018年7月～2018年9月）

2018年11月9日

株式会社 アルバック

## ◆将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるFPD（フラット・パネル・ディスプレイ）・半導体・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## ◆本資料における表示方法について

（特段の記載がない限り、数値はすべて連結ベースです）

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q（累計）： 第2四半期連結累計期間

2Q： 第2四半期連結会計期間

□ 受注高 777億円（前年同期比▲4% 前4Q比+63%）

- 前年度下期に一時的に低迷した受注も今四半期は回復

□ 売上高 617億円（前年同期比+1% 前4Q比+4%）

- 引き続き高水準で推移

□ 営業利益 87億円（前年同期比▲3% 前4Q比+56%）

- 一時的に減少した前四半期から回復

□ 2019年6月期の業績見通しは、8月開示値から変更なし

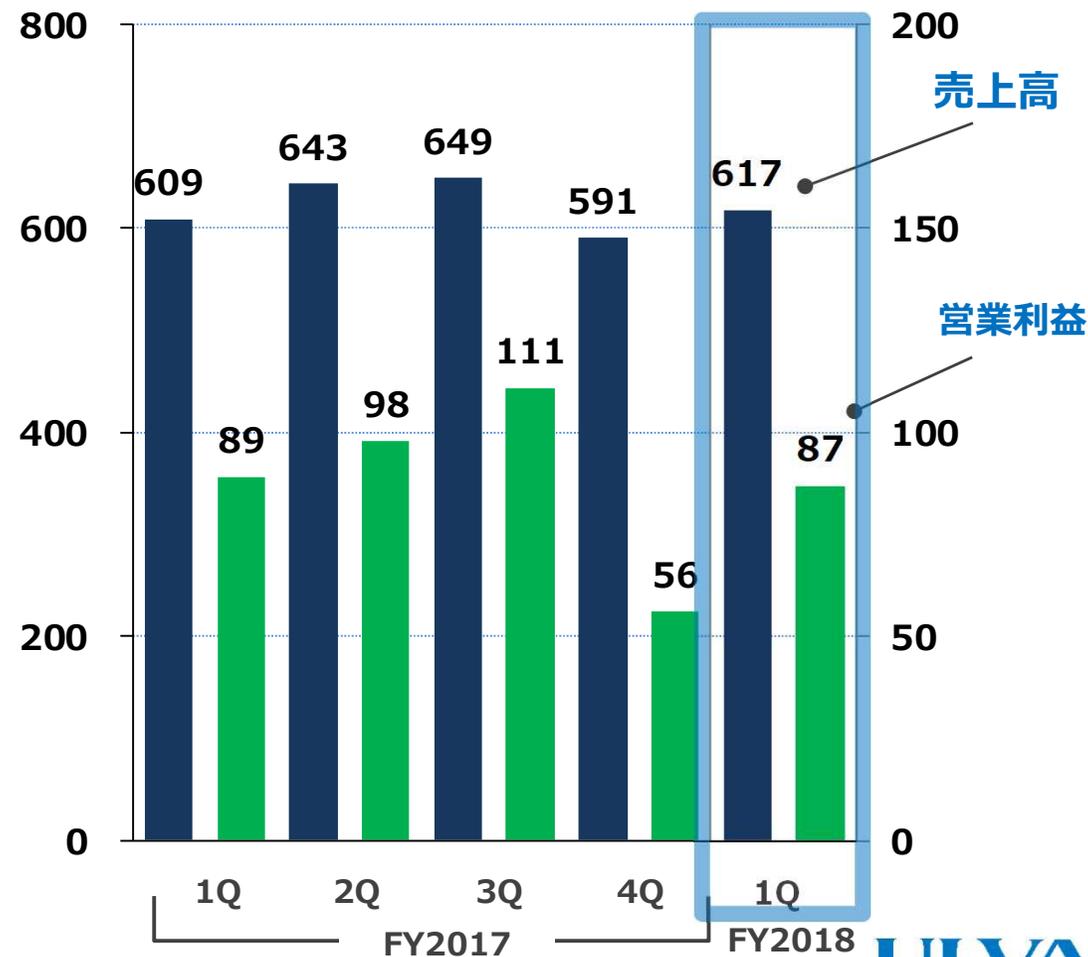
# 2018年度1Q連結業績概要

- 受注高：大口のFPD製造装置受注もあり、前年同期並み
- 売上高：半導体・電子部品製造装置の寄与により前年同期並み
- 営業利益：前年同期並みに回復

【単位：億円】

	2017年度 実績	2018年度	
	1Q	1Q	対前年同期 増減率
受注高	810	777	-4.0%
売上高	609	617	1.3%
営業利益	89	87	-2.6%
率	14.6%	14.0%	
経常利益	92	90	-2.1%
率	15.1%	14.5%	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	63	61	-4.0%
率	10.4%	9.9%	

売上高と営業利益の推移（四半期毎）

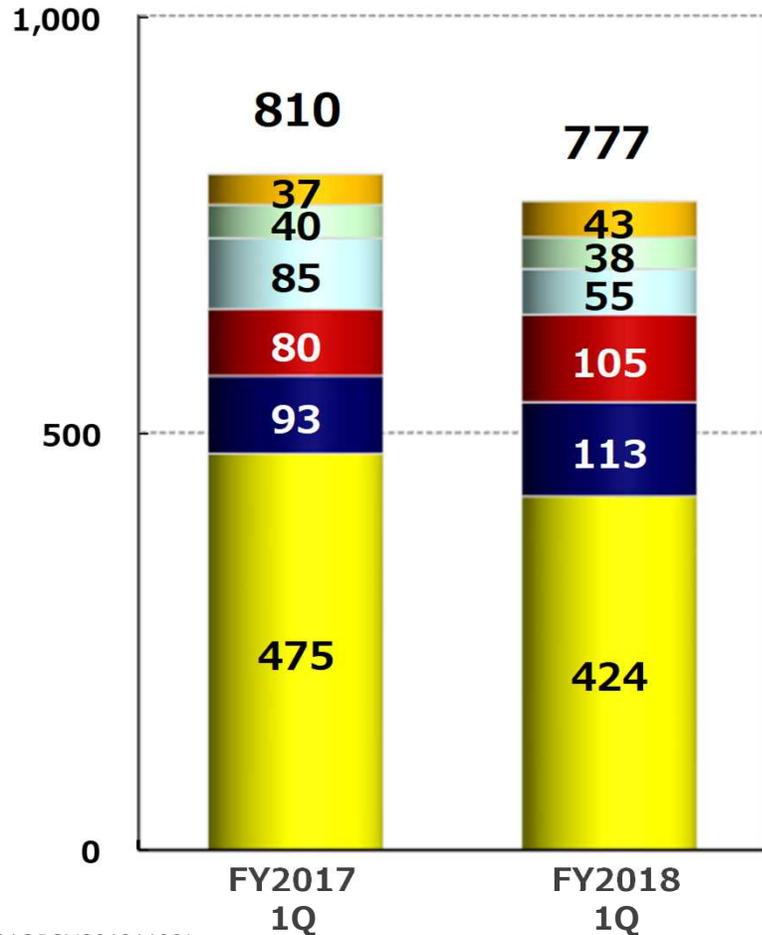


# 2018年度1Q連結業績概要（品目別受注高）

- FPD・PV製造装置：大口の中国向け大型LCD製造装置受注もあり高水準
- 半導体・電子部品製造装置：半導体製造装置は、メモリ向けに加え、ロジック向けも寄与  
通信デバイスやパワー半導体向けも好調に推移

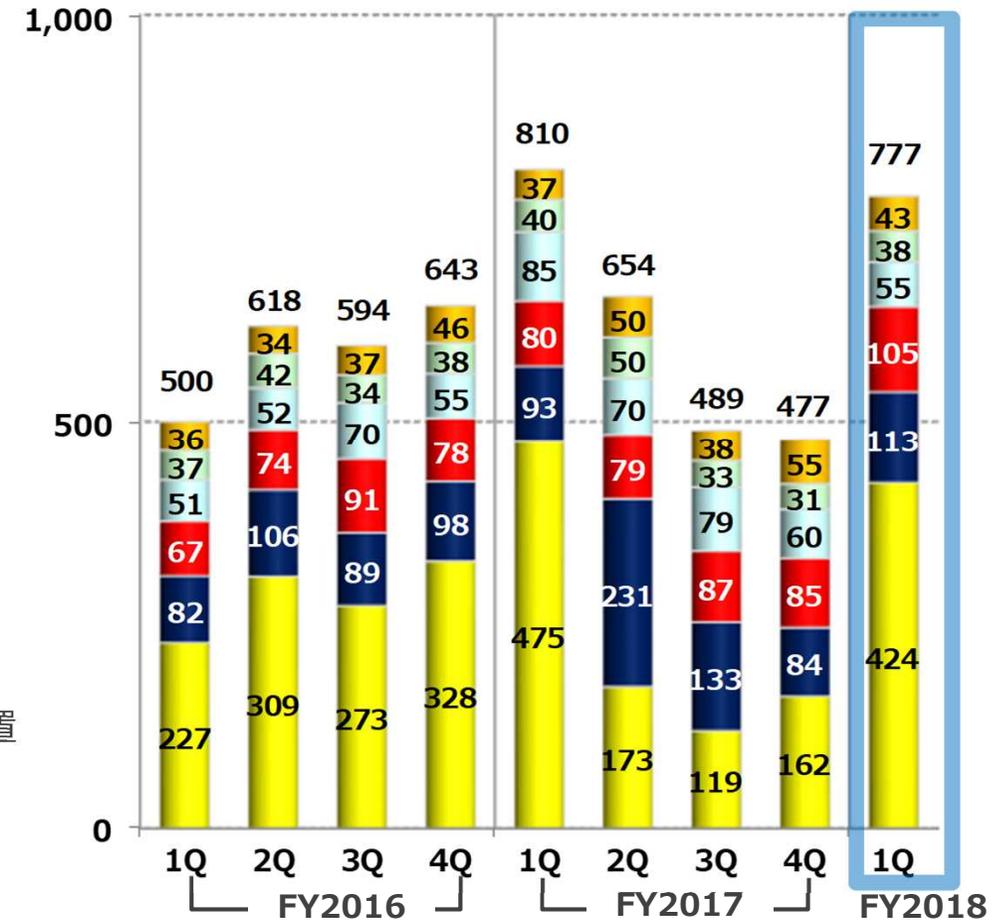
前年同期比

【単位：億円】



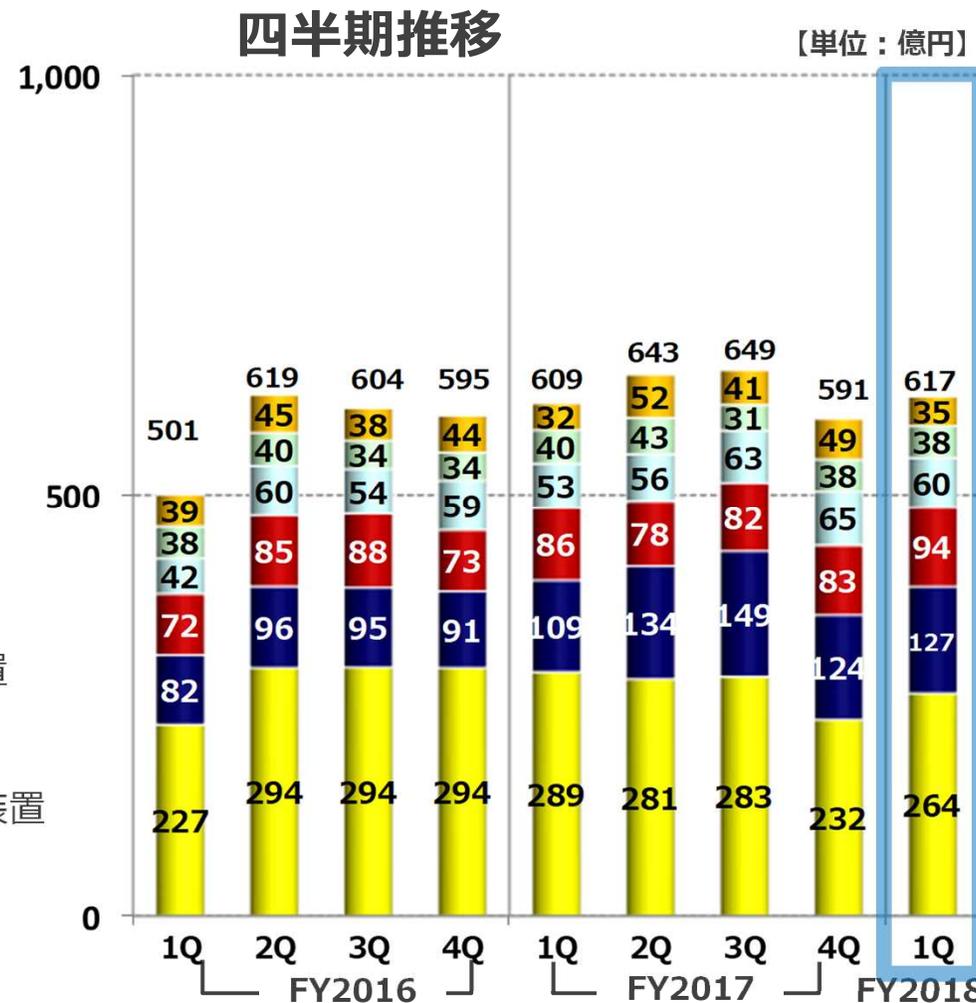
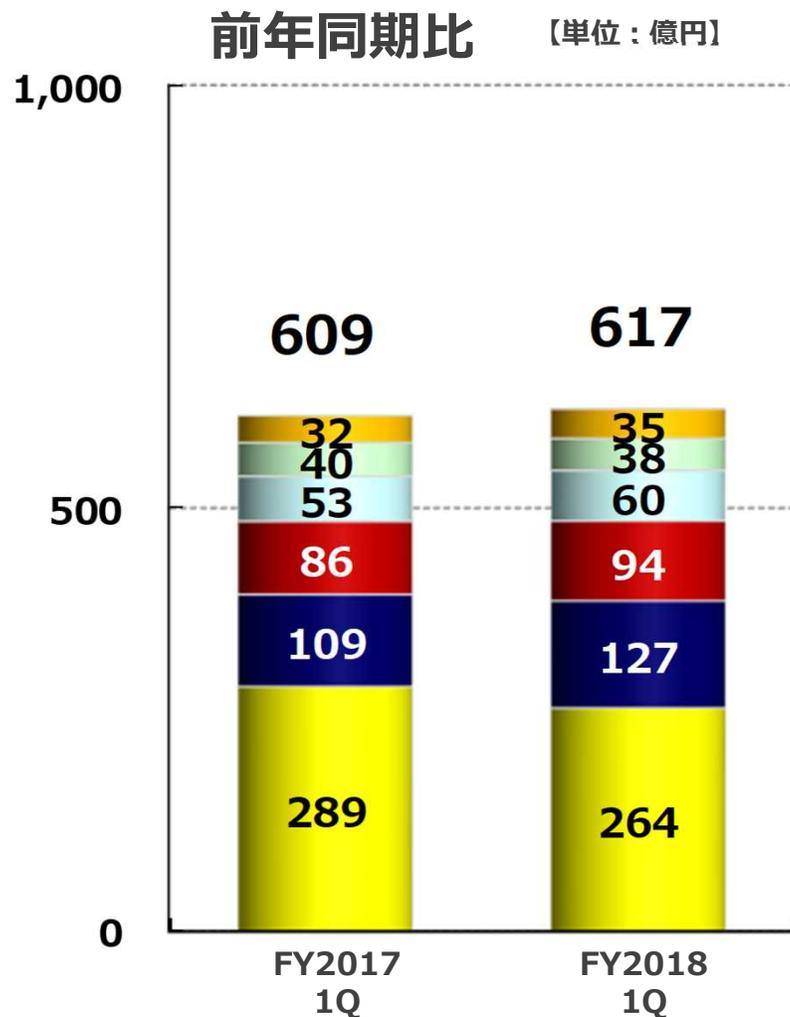
四半期推移

【単位：億円】



# 2018年度1Q連結業績概要（品目別売上高）

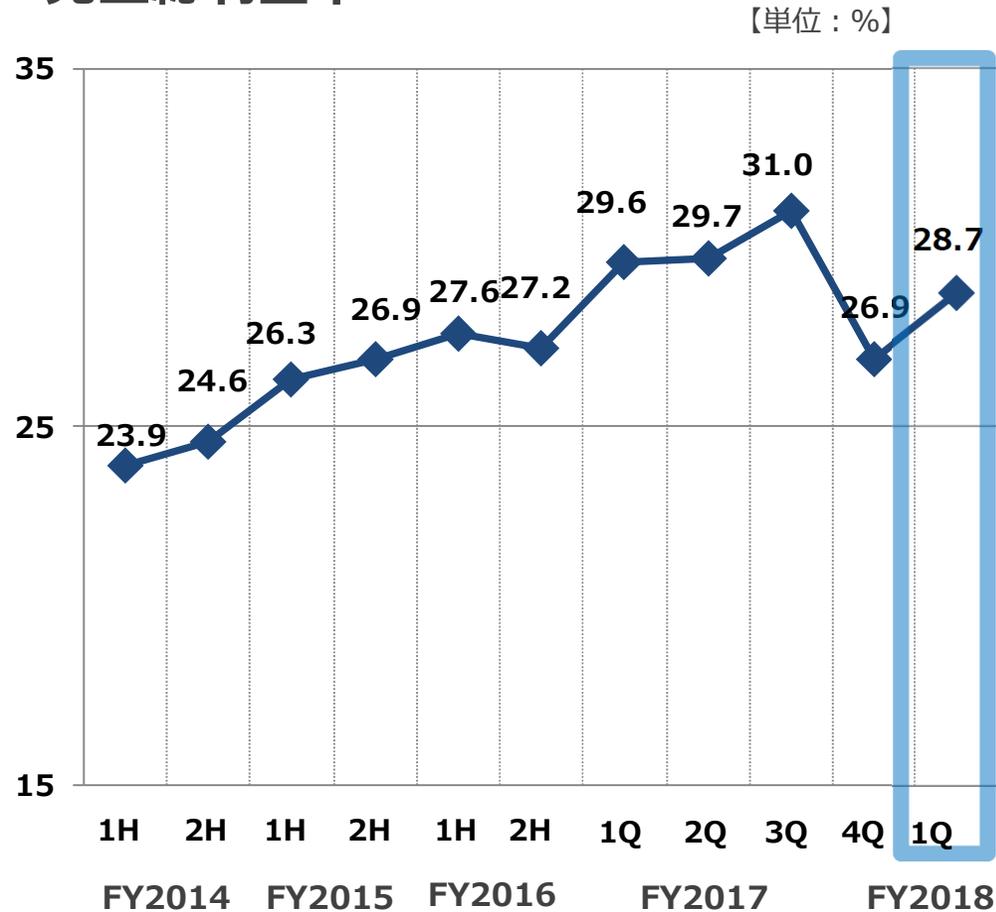
- FPD・PV製造装置：大型TV向けLCD製造装置やスマートフォン向けOLED製造装置が寄与
- 半導体・電子部品製造装置：メモリ向けや通信デバイス向けを中心に高水準で推移



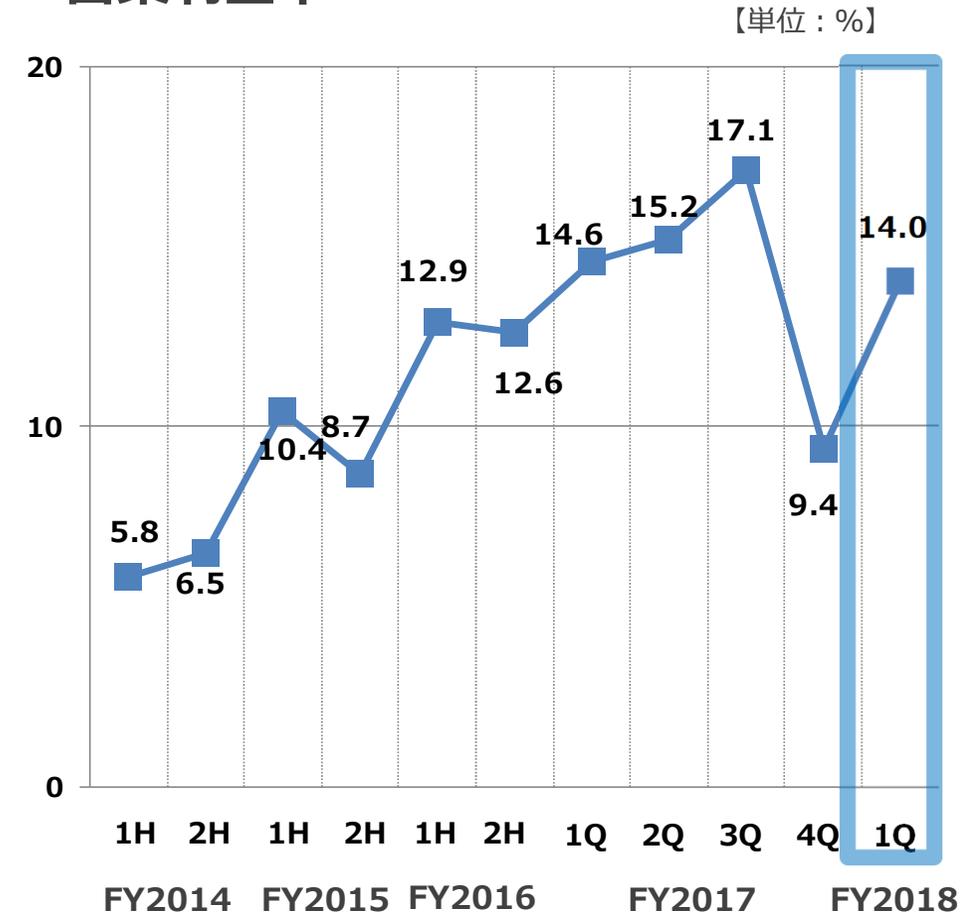
# 2018年度1Q連結業績概要（利益率）

- 研究開発費等の増加により、前四半期に一時的に低下した利益率も回復

## 売上総利益率

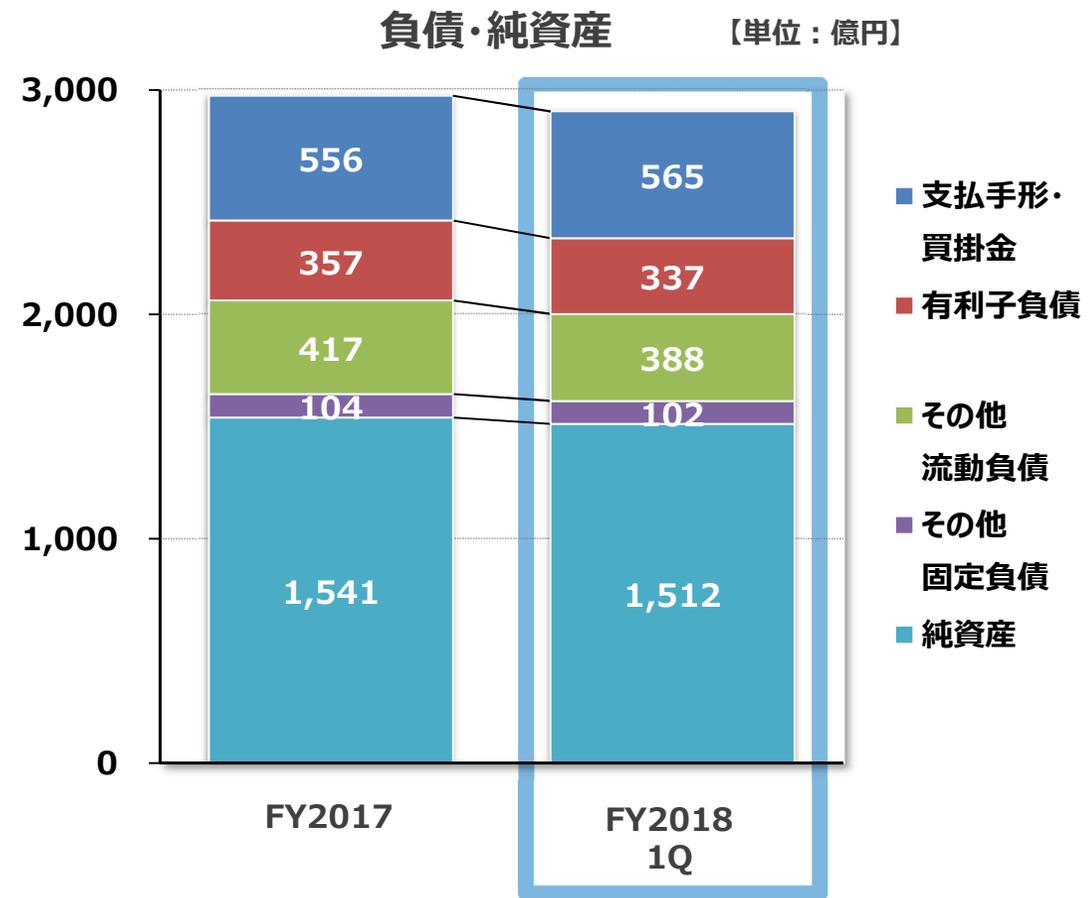
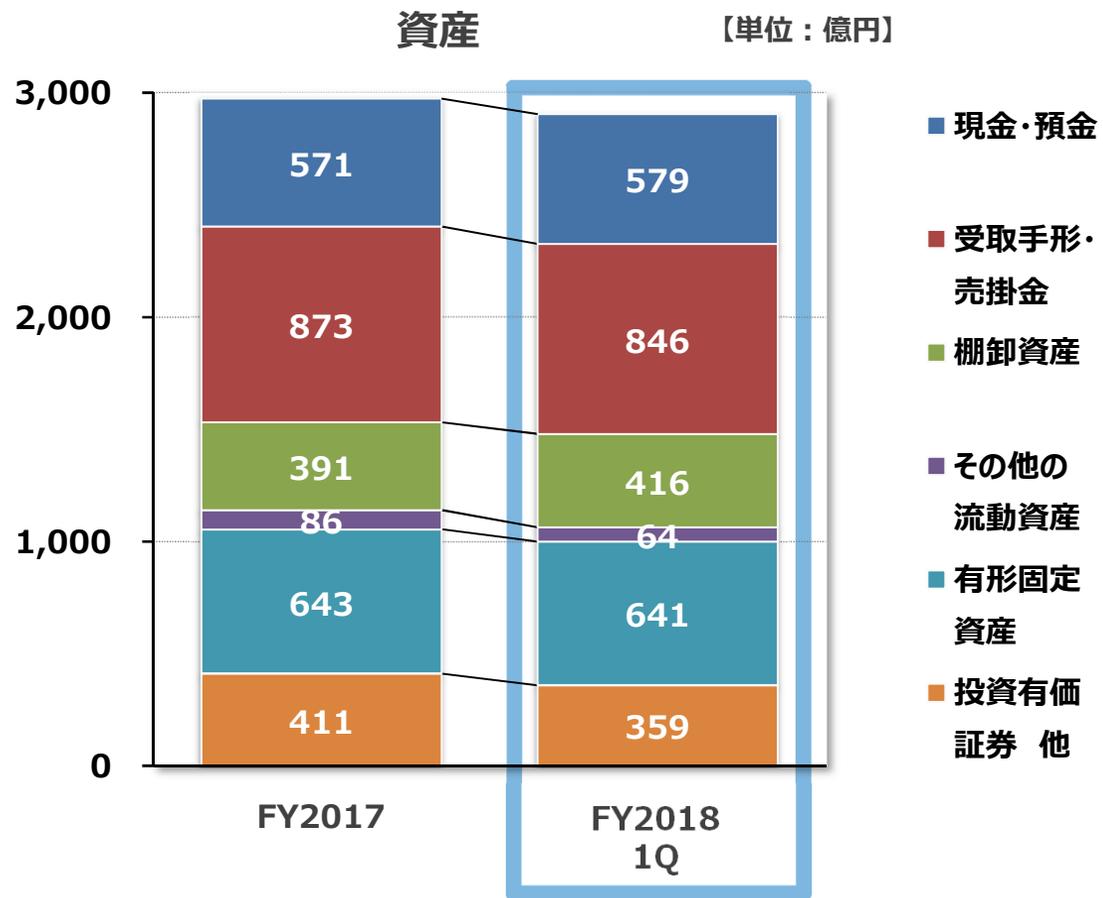


## 営業利益率



# 2018年度1Q連結業績概要（連結貸借対照表）

- 受取手形・売掛金は26億円減少、棚卸資産は25億円増加、有利子負債は20億円減少
- 自己資本比率は49.9%、ネットキャッシュは242億円までそれぞれ改善



# トピックス 「コーポレートガバナンスの強化」

## ＜新任取締役ご紹介＞

- ・ 社外取締役 4 名体制となり、取締役10名の 1 / 3 超を継続
- ・ 開発・生産・営業のそれぞれの分野から 3 名の取締役を起用

### 新任取締役（独立 社外）



中島好美

### 新任取締役 常務執行役員



白忠烈  
(開発本部長)



佐藤重光  
(生産本部長)



石黒雅彦  
(営業本部長)

# トピックス 「産学連携：大阪大学内に研究所を開設」

- 2018年11月1日 大阪大学内に「アルバック未来技術協働研究所」を開設
- 大阪大学の産学連携の枠組みを通じて、相互の研究者の人財交流を図り、研究開発ネットワークを構築するとともに、医工学分野における学術の発展、技術課題の解決、および創造力豊かな大学の人財育成への貢献をめざす
- 当社においては、基礎研究拠点として位置付け、アルバックのオリジナル技術をベースにした次世代のFPD応用や人工光合成に繋がる半導体量子ドット創製とその量産技術の検討、さらに、超高速冷凍乾燥技術の医学応用（細胞保存）という新たな価値創出をめざす

## 【アルバック未来技術協働研究所の概要】

名 称：アルバック未来技術協働研究所  
(アルバック未来技術研究所大阪研究部)

設置場所：大阪大学吹田キャンパス内 センテラス棟 4 階

研究体制：所 長 山本 孝夫  
(大阪大学大学院 工学研究科 教授)  
副所長 村上 裕彦  
(アルバック 未来技術研究所長、シニアフェロー)

上記含め、教員及び研究員11名（非常勤含む）



＜大阪大学吹田キャンパス内 センテラス棟＞

# さまざまな業界・用途で貢献するアルバックの真空技術



**Automobile**  
自動車



**Semiconductor**  
半導体



**Flat Panel Display**  
フラットパネルテレビ



**Photovoltaic**  
太陽電池



**Food Processing**  
食品



**Aircraft**  
航空



**Bio**  
バイオ



**Smart Phone**  
スマートフォン



**Magnetic Device**  
磁気デバイス



**Home Appliance**  
家電製品



**Aerospace**  
宇宙産業



**Pharmaceutical**  
医療・薬剤



**Wearable/VR**  
ウェアラブル/VR



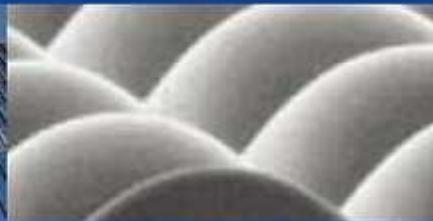
**Power Device**  
パワーデバイス



**MEMS Device**  
MEMS デバイス



**Architectural Glass**  
建材・スマートガラス



**Optical**  
光学



**Flexible**  
フレキシブル



**Packaging Materials**  
パッケージング



**Next Generation Light**  
次世代照明

真空テクノロジーで  
「つくる」をつくる

**ULVAC**